

関宮山

とうじゅいん

東樹院

笹下二丁目

創建 1127年（大治2年）寺伝によると沙門順玉が遊歴の途、この地に立ち寄って当院を創建したというが、その後、弘治年間(1555-58)寺運が衰退、この有様を見た沙門至順が我がことのように悲しみ再隆に一念発起した。当時、笹下城の領主間宮豊前守から三十貫文の土地寄進をうけ寺を再興することが出来た。

開基 以来、寺では間宮豊前守を中興の開基としたが、天正5.6年(1577.8)の頃、寺領が没収されたが天正18年(1590)の検地の時に回復。元禄7年(1694)類焼により多くを消失も同年本殿は再建された。明治17年再度の火災によりすべてを消失、現在の本堂は昭和48年に新築落慶、客殿は昭和50年に増改築した。

宗派 高野山真言宗

本尊 阿弥陀如来

- 特徴**
- 修業大師の石造が目を引く、幼稚園を併営しており賑やか
 - 東国八十八ヶ所霊場 第70番
 - 明治時代、東樹院の隣には久良岐郡役所が置かれ久良岐郡における行政上の中心地として大いに賑わったが大正15年、郡役所は廃止され他の新街道の影響もあってすたれてしまった。

民話

文福茶釜

東樹院は「タヌキの寺」として名高い、伝承によれば寛永年間(1624~43)にこの寺に一夜の宿を借りた若い女の人が、お礼に二枚の画を描き、茶釜と共に寺へ寄進した。ある晩、松本の薬師堂の近くでタヌキが犬にかみ殺されていた。そばに、その女の人の着物がが食いちぎられていたという。タヌキの残した二枚の画は消失したが、寺宝としての茶釜は今も保存されており、この話を伝えるタヌキと女の人の陶製像がある。



参道



本堂



弘法大師 石造



民話のタヌキ、女の



六地藏尊



庚申塔